

ALT



こんにちは
ルーカス・クラークソン
外国語指導助手 (ALT)
です

私が控えるわけ

私は肉食主義者ではありません。アメリカの中西部出身なので鶏肉、豚肉、牛肉等すべての種類の肉を食べてきました。正直言うと一番好きなのは、ミディアムからレアぐらいのジューシーな、少量のソースを添えたステーキです。しかし日本に来てから、私の牛肉の摂取量はものすごく少なくなりました。私の食事にシーフードが加わったので、必要なタンパク質はそれらで十分補えることがわかりました。また牛肉の摂取を少なくすることで、より健康的になることもわかりました。その上、そのことが世界の生態系改善に役立ち、貧困で飢えた人々を救うことになるのです。

私がより節度のある食事を選ぶようになったのは、もっと健康になりたいという純粹に個人的な理由からです。過剰な牛肉の摂取は心臓血管の病気、ガン、肥満などを引き起こす可能性があることは常識です。こういったものはだれにとっても歓迎できません。アメリカの食習慣から抜けきれない私は、毎日肥満を意識します。牛肉は私たちが必要とするタンパク質を補給してくれますが、過剰な消費はただ腰や首の回りに脂肪の輪を増やすだけで、それが多くの病気につながるのです。

現在、世界の生態系は危機的な状況にあるといえます。私たちが牛肉、豚肉、鶏肉などを控えることが生態系の改善につながるのです。昔、人類が農業を始めたときから、土地の弱体化が始まりました。農地が栄養をなくすにつれ、土地の生産性を高めるために化学肥料を注がなければならなくなります。こういった化学肥料は土地や大気を汚染するだけでなく石油への依存を強めます。さらに、農業に加えて牧畜が導入されるとこれらの土地はどんどん、人間に食料を直接的に供給するためだけでなく、牛や豚、鶏の飼料にするための作物を作るために使われるようになりました。本来ならば、地球上の多くの貧困と飢えに苦しんでいる人々を救えるはずのエネルギーや土地が大規模に浪費されるのです。

私が控えようと思ったもう一つの理由は（反対意見もあるかもしれませんが）、動物の権利にかかわるものです。生態系の学者リチャード・マニングは次のように言っています。「牛たちは肩を押し合わなければならないほどの空間の中に詰めこまれ、排せつ物にひざまでつかり、穀物を無理やり押し込まれ、こういった監禁状態が必然的に生み出す病気を防ぐために抗生物質を絶えず注入されながら生きている」と。

多くの人々は、人間が自然の秩序の中で特別の位置を占め、動物たちは当然、従属的な位置にあると考えます。それだけなら良いかもしれませんが、たとえばBSE（狂牛病）の発生でもわかったように、動物たちの被監禁状態が人間の生命に危険を及ぼすとすれば、私たちは人間の特権というものについて、再考しなければなりません。

私は日本について素晴らしいと思う点がたくさんあります。特に西洋の近代文明の波に対してある部分、きちんと抵抗していることです。しかし私はアメリカ式ファーストフード店のそばを通る時、そうとばかりも言えないなという気になります。産業的な牛肉、豚肉、鶏肉の消費を制限することで、私たちは体を守るだけでなく、全地球の健康と安定に貢献することができるのです。

*この記事は、ALTの書いた英文を訳したものです。
英語版は中央公民館にあります。



他人事 その考えが赤信号

（「子どもの安全」に関する入選標語）

子どもたちを犯罪から守りましょう

私たちは地域の中で育ってきました。もう一度地域の環境を再点検し、手を取り合って子どもたちを犯罪から守りましょう。

■問合先 青少年センター ☎24・3004